



PTA活動を振り返って

PTA会長 安永 聡

今年度はコロナウイルスの影響により行事の中止や縮小であり活動していませんが、校長先生をはじめ、先生方、各役員、会員の皆様のご協力により令和2年度を無事終えることが出来ました。副会長4年、会長1年、計5年間も役員をさせていただきました。副会長4年、会長1年、計5年間も役員をさせていただきました。たくさんの研修や活動に参加し、いろいろな方との出会いを通してとても有意義で勉強になった期間でした。

高校生活は、子供と関わる最後の期間だと私は思います。学校と関わることで負担を感じるかもしれませんが、本来それが当たり前と捉えなければいけないと思っています。そんなことを意識して、学校と保護者がこれまで以上に連携し、より良い江津高等学校を目指してほしいと思っています。

息子が生徒会長、母がお局私がPTA会長と江津高校を乗っ取るのではないかと危惧されていましたが、みんな

な今年度で卒業しますので安心してください。

最後になりましたが、卒業される3年生の保護者の皆様、長い間PTA活動にご協力いただきありがとうございます。江津高校の益々の発展とPTA会員様のご健勝とご多幸をお祈りし結びとさせていただきます。



生活環境保健委員として

生活環境保健委員長 溝上 美智子

今年度はコロナ禍で例年通りとはいきませんでした。が、活動について報告させていただきます。

まず奉仕

作業ですが、屋外といえども大勢の参加が見込まれますので熱中症に気をつけながらマスクの着用をお願いして実施しようと計画いたしました。8月は第2波が押し寄せ、県内でも大規模なクラスターが発生しており、心配もしましたが、当日は約130名の参加者により無事、奉仕作業を行うことができました。参加いただきました皆様には心から感謝いたします。



もうひとつの活動は11月のロードレース後の豚汁の炊き出しです。



たが、やはり中止となり、この度はジュースとお菓子の提供にいたしました。

先生方から豚汁中止の話があると「えーっ」と生徒の皆さんから大きな声があがったと聞き、中止になったことは残念にも思いましたが、毎年の活動が生徒さんに喜んでもらえていたことを知り、嬉しくも思いました。来年度は、豚汁のまかないができる世の中に戻っていることを、また、奉仕作業で整備されたグラウンドでにぎやかな体育祭が開催されることを祈っております。

近いから

3年1組保護者 南口 周哉

父娘そろってお世話になった江津高校。3年前、なぜ江津高校を選んだのかと聞いたとき、理由の一つとし



て返ってきた言葉は、「近いから・・・」まさに自分と同じ安易な答え。しかし、今になってその自分の家の近くに高校があることの素晴らしさに気づかされている。

現在江津高校は各学年2〜3クラス。高校としての規模は小さいが、江津市にとっては大きな存在と言える。自分が学生の頃と比べ、現在は地域と共に歩んでいるといっても過言ではない。

娘も3年間続けた吹奏楽部では、地域の中の音楽隊として、地域の中につかり存在感を示していた。また、昨年取り組んだ青年会議所の支えで行ったGO ACT IONプロジェクト、島根大

学とJRW 日本との協働による都野津駅魅力化プロジェクト。机上の学習では味わえないダイナミックな活動のことが、よく食卓の話題に上っていたのを覚えている。近い江津



高校で学んだ3年間。きっと将来娘の宝物になると信じている。

3年間を振り返って

3年2組保護者 津田 陽子

「過ぎてみれば、あつという間だった。」と、幸せな気持ちで締めくくられそうです。特に3年生になつてからは、大きく成長

しました。卒業まで残り数か月：という昨年末に、制服のズボン了新調するほどに。もちろんそれに伴って、心も大きく成長しました。その成長する過程で、たくさんの喜びがありました。もちろん悩んだりした事もありました。親として息子の成長を見守るのに一緒に喜んで喜んだ日もあれば、心配な日を送る事もありました。そんな日々を送る中で、担任の先生、息子のお友達、保護者の方々、神楽愛好会関係の皆様等々、挙



げればキリがありませんが、私たちが親子が関わった全ての学校関係の皆様が温かい気持ちに触れ、支えられました。心から感謝を申し上げます。人を大切に、温かい気持ちを持って他人に接する事が、誰かの心の支えになるのだと体験した3年間でした。本当にありがとうございました。

THANK YOU FOR

3 YEARS!

3年3組保護者 泉川 淳子

私の娘は地元の江津高校へ入学させて頂き、友人にも恵まれて毎日楽しみに学校へ通う事が出来ました。部活動ではコロナウイルス感染症で自粛



生活の中、最後の集大成の大会で子供なりに苦しい思いや悔しい思いもしたと思いますが仲間と一緒に戦っている姿を見られて感動させてもらいました。また私自身も子供を通じて沢山の方々と出会い、忘れられない思い出が出来た事に感謝しています。先生方も3年間、コロナ関係で色々な事が大変だったにもかかわらず、子供達のモチベーションを下げずに頑張ってご指導して下さいました事、子供達にとっても良い経験になったと思います。感謝の気持ちでいっぱいです。毎日のお弁当作りは大変だったけど、これから作らないで良いとなるとうれしい反面、子供から手が離れて行く事が寂しい気持ちもあります。また、体育祭ではお家でもダンスの振り付けを覚えてたり楽しかった出来事を嬉しそうに話してくれた事を覚えていきます。行事や



部活で頑張っている姿を見られなくなるのは寂しいですが、これからは自分で決めた進路へ進むため、県外へ出て親元を離れる事になりますが、信念と誇りをもって歩んで欲しいと家族みんなまで応援しています。最後になりましたが、私自身、子供と一緒に少しづつ成長できた事、周りの方々に支えて頂いたお陰だと思っています。3年間本当にありがとうございました。



PTA研修会報告

研修・広報委員 濱松 文子

11月28日(土) 大田市あすてらすにて開催されました、標記の研修会に同じ広報委員の三藤さんと一緒に参加させて頂きました。研修会は、『みんなちがうからおもしろい 十色それぞれの自分色』をテーマに講師に島根県立東部発達障害者支援

センターウィッシュ所長の石橋美恵子氏を迎えての研修会でした。

講演内容は、発達障害について・発達障害のある子供の理解とありましたが、発達障害とは、具体的にどのような障がいであるかと共に発達障害を抱える子供達が、社会ではなかなか理解してもらえず時々生きづらさを感じている事に、私達が出来る事を考え、見直さなければいけないと感じました。障がいのある・なしに関わらず親は子育ての中どこかの時期で一度は思い切り子供に心や手をかけなくてはならない時が来ます。その時に親から十分に目を向け手をかけ心をかけてもらう事で子供は安心して自立出来る様になり、その『手のかかる』時期の密な親子関係は、とても大切だと思いました。親は、悪いことは当然に指摘しなければなりません。ですが、こうあって欲しいという部分が強くなり子供の支援を越えた押付け・強制は無くし、子供にとってどんな支援が

必要であるか、それは子供の気持ちを深く理解し、受け入れることが大切だと思います。目先の事にとらわれがちな今、大切なのは何か、子供達が、それぞれの進路・社会に出て互いの立場を分かり合え、配慮していけるよう私達がその環境を整え共に取り組んでいかなければならない課題だと思いました。





あとがき

研修・広報委員長 桑原 さおり

PTA広報誌「星高」の発刊につきまして、ご協力いただきました皆様には心よりお礼申し上げます。

今年度の研修広報委員長に選任され、私に務まるのか不安ではありましたが、あつという間の1年間でした。というのも昨年からの新型コロナウイルス感染により、ありとあらゆる行事が延期や中止になり何も出来なかった1年でした。何より生徒の皆さんは感染対策により、いろんな活動が制限され、悔しい思いや悲しい思いをされたのではないのでしょうか。また先生方にはそんな生徒たちを支えてくださり感謝の気持ちでいっぱいです。保護者の皆さんも子供達の元気で楽しそうな姿を体育祭や文化祭、部活動で見る事を楽しみにしておられたことでしょうか。本当に残念で悔やまれます。どこにもぶつける事の出来ない思いを胸に悶々とこのまま終わってしまう

のかなと思っていました。そう、思っていたのですが…。広報誌へ掲載する写真を選考しながら、生徒の皆さんのたくさん笑顔に救われた私でした。その笑顔が少しでも多く皆さんにお届けできたらなと委員一同頑張った制作いたしました。これからどんな未来が待っているのか誰にも分かりませんが、江津高校の生徒の皆さんの元気で明るい笑顔で切り開いて欲しいと思います。ありがとうございます。



広報誌制作作業の様子